

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

**※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
 します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
 たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
 告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。**

1. 学校概要

学校名 聖ウルスラ学院英智小・中学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）
 住所 〒984-0828
 宮城県仙台市若林区一本杉町 1-2
 E-mail : teachers@st-ursula.ac.jp
 Website : _____
 児童生徒数：男子 190名 女子 302名 合計 492名
 児童・生徒の年齢 7歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ ）

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本校では国際理解教育や環境教育を様々な方法で総合的に行った。今回はその中でも中心となる2つの活動を報告する。

①宿泊体験学習と教科教育のカリキュラムを中心に実践を報告する。

本校では各学年で宿泊体験学習を設定している。この活動は普段と違う地域で、違う文化に触れる体験をすることを目的としている。そのため、本校では宿泊体験学習を異文化理解教育の中心においている。その中でも小学3年生、6年生、中学3年生の宿泊体験学習がそのの柱となる。なぜなら、それらの学年で学校外の人々との交流活動を行っているからである。

(1) 3年生：3年生は山形県で農林業体験と地域のユネスコスクールとの学習交流会を行った。学習交流会ではつる性植物の性質やグリーンカーテンとしての活用可能性について発表した。

(2) 6年生：6年生ではアメリカの大学生と共に、国内で2泊3日を過ごした。児童は英語でコミュニケーションを取りながら、日本の文化をその大学生に伝える活動を行った。

(3) 9年生：9年生では9年間の学習の集大成としてオーストラリア・ケアンズで海外宿泊研修を行った。活動内容は、ホームステイや現地校との交流会、世界遺産見学や異文化体験などである。ホームステイでは英語しか通じない環境に身をおき、学習してきた英語を活用する。現地校との交流会では、日本についてのプレゼンテーションを行う。

これらの学習活動を組み合わせて、校外の人との交流を通して相手を知り、相手に何を伝えればいいのかを考え、内容を組み立て、必要に応じて英語を駆使しながら発表をおこなう。

②英智公開研究会でのポスターセッション

上記、宿泊体験学習を中心とした活動のまとめの機会として、11月に本校で開催する公開研究会での児童生徒によるポスターセッションで児童生徒による発表を行った。このポスターセッションは、児童生徒が学習してきた内容をまとめ、来校者に向けて各自発表するものである。

3～9年生は上記の内容を、その他の学年はそれぞれに設定した課題を発表した。

4年生は地元の七北田川を調べ上流・中流・下流の性質や流域の文化を学んだ。

5年生は秋田県男鹿半島に宿泊体験学習として行く。秋田県の文化であるきりたんぼやなまはげ、和太鼓を学んだ。

これらの内容を相手に分かりやすいように伝える方法を考えながらまとめ、ポスターセッションを行った。

発表する内容は各学年で国際理解、環境などの目標を設定し、それぞれの学年

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（

）